

# 搾乳立会を受けてみよう

## ～信頼のおけるパートナーとともに～

「残乳があると乳房炎になる」、「乳房全体をマッサージしなければ乳が出ない」、こんな誤解をしていませんか？。

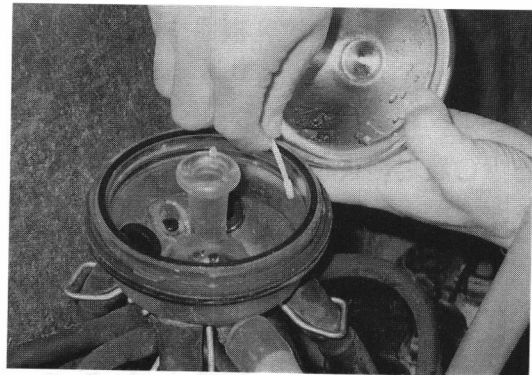
誰でもそうですが、自分で信じて疑わなかったことでも、他人に指摘されたり、他人に説明したりすることで、「あっ、そうか」と間違いに気づくことが1度や2度あるはずです。搾乳立会は、このような習慣化された作業を客観的に見直すひとつの手段となります。

### 1. これが搾乳立会のスペシャルメニューだ!!

搾乳直前、直後あるいは搾乳中にしかできないことが搾乳立会メニューの中心となります。別海町のある農協で行った乳質改善指導プログラムの中から、搾乳立会メニューを紹介します。

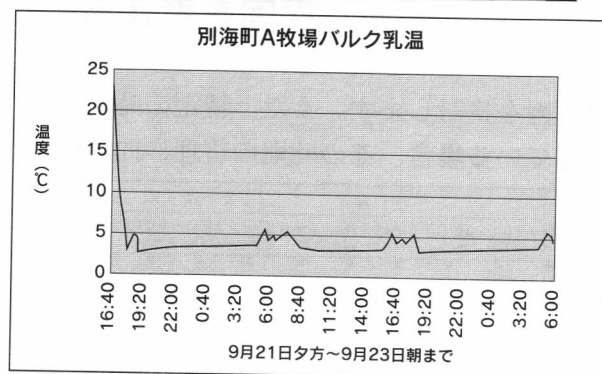
#### (1) 生菌拭き取り検査

測定箇所を綿棒で拭き取り、滅菌シャーレにこすりつけます。常温で48時間培養し、生菌コロニーの数を測定します。



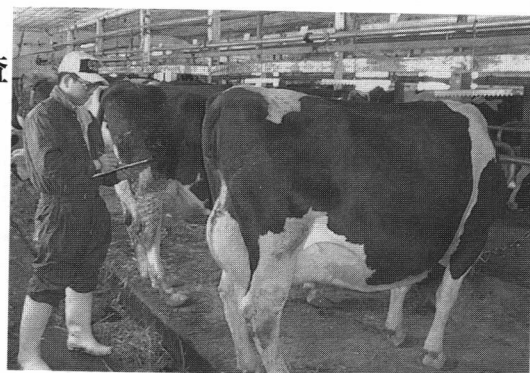
#### (2) バルク乳温検査

搾乳開始後1時間で10℃、2時間で5℃になるか、第2回目以降の搾乳がおこなわれても、10℃を超えていないか確かめます。



#### (3) 牛舎、牛体、乳頭周りの環境検査

牛舎、牛体、乳頭周りの環境は乳質にも影響を与えます。おのおの箇所において清潔、乾燥、快適性が確保されているか調べます。



#### (4) 生乳の連続サンプリング検査

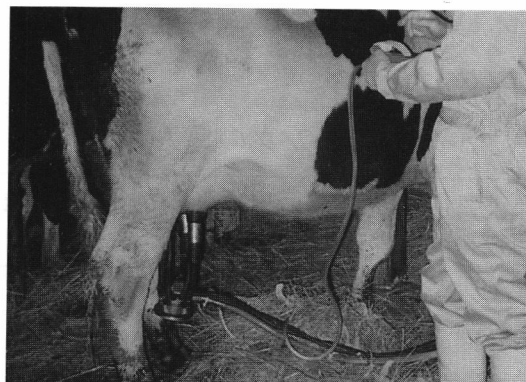
ミルカーの洗浄が不十分な場合には、1投目の生乳が細菌に汚染されています。汚れたスポンジで生乳を回収している場合は、搾乳終了時の生菌数が高くなります。



#### (5) ミルカーおよび搾乳方法検査

搾乳機器の種類、メンテナンスの状態を確認します。

さらに、搾乳手順、搾乳時のクロー内圧を測定して、実際に乳頭先端にかかっている真空圧とその変動を測定します。



#### (6) 洗浄方法検査

洗浄工程を確認します。洗浄温度の確認はもちろん、洗剤が正しい工程で使われているかも調べます。



## 2. 改善提案書

乳質は様々な要因が交錯していて、一つの事項を解決したからといって、直ちに良くなることばかりではありません。

また、他の部分がいくら良くても、一部が全体の乳質に悪影響を与える場合もあります。

これらの改善案をコスト面も含めて優先順位でまとめたものが改善提案書となります。

調査結果をもとに、農場に適した改善を行った場合では、効果が確実に上がっています。

### A農場乳質改善（生菌数）提案

1999.9.16  
JA\*\*\*乳質改善推進委員会

#### 生菌数増加の原因となり得る点（順不同）

- ・配管長に比べて洗浄水量が少ない。
- ・予冷装置がない。
- ・ミルクジャー内面、クロー内面、ライナー内面で汚れが見られる。
- ・ティートカップ装着時に乳頭が濡れているので、細菌を含んだ水分が混入しやすく、ライナースリップも起こりやすい。
- ・牛体に汚れが見られる。

#### 短期的な改善ポイント

- ・殺菌のときは40度くらいのお湯になるよう水を入れて調整します。

#### 中期的な改善ポイント

- ・部分的に分解手洗浄しなければならない箇所は必ず定期的に行います。
- ・ゴムパッキン等は定期的に変更します。
- ・搾乳手順を見直し、乾いたタオルかペーパータオルの使用を考えます。
- ・洗浄に一度程度、水酸化ナトリウムによる強アルカリ洗浄を実施します。  
（農協へ依頼してください。）

#### 長期的な改善ポイント

- ・2インチのミルクラインの場合10mのミルクラインに対して洗浄液が約15リットルが推奨なので100リットルクラス以上の洗浄バットに変更します。（ミルクジャーの容量の変更も必要となる場合があります。）
- ・予冷装置（プレートクーラー等）を設置します。（素早く牛乳を冷やすため）
- ・大気中の細菌をゼロにすることができないので、環境衛生を徹底して、大気中の細菌コントロールするしかありません。そのためには、牛舎の内（牛床、通路、飼槽、畜内の空気など）、牛舎の外（牛舎と放牧地またはパドックとの取り付け通路、パドック、ロール草場周辺など）、乳牛の体（体表面野に後駆、乳房と乳頭、尾、蹄など）を「乾かす」作業を目的を持って行い、「乾燥している」状態を意図的に作り出す事が非常に重要です。